

# 手軽にできる地域調査の提案

岐阜県立羽島北高等学校 鳥居 淳

## 1 地域調査の意義

”百聞は一見にしかず”という諺のとおり、ある物事についての言葉を尽くしての説明や、文章による解説よりも、実物に触れたり見たりすることで、物事はたちまちのうちに理解され、身近なものに感じられるようになる。あらゆる学習活動においてそのようなことが言えるが、地理においては特に、物事が実際に存在しており、写真や映像、地図、グラフや表、インターネットで調べる、あるいは実際に巡検などを実施するなど、様々なアプローチで身近に触れ理解することが可能である。

今回の地理研究会の課題をいただいて、筆者の地理授業でやってきたことを考えると、写真や実物教材などの授業での提示は可能な限りおこない、地形図などの作業学習を取り入れてきたが、いざ教室を出ての野外巡検は、日々の忙しさにかまけて具体的実施まで考えたことはなかった。この機会を通じて地域調査について考えてみたが、本校が存在する地域を巡検するの学習案を立てるのも一考であるが、本校や筆者、生徒のおかれた現状を考えると現実には、一斉に生徒を校外へ連れ出しての巡検の実施は負担も大きく困難である。それでも地域を理解し、実物に触れて体験し自分で調べる巡検は重要であり、そこで、生徒にも教員にも負担が少なく、かつ有効な地域調査の手法を考え提案したい。

## 2 本校の立地

本校は岐阜市南西部の南に隣接する羽島郡柳津町に立地する。学校のすぐ北を流れる境川の河川敷が岐阜市との境界である。岐阜市に隣接する交通至便な柳津町は、岐阜市のベッドタウンとして人口が急増し、岐阜市との繋がりが深いことから平成17年度には岐阜市との合併が決定している。一方、自然地形から見ると、柳津町は木曾川と長良川にはさまれた標高5～10mの氾濫原に位置している。よって地形図上からは、町役場が位置する旧集落は自然堤防上に位置し、西部の流通センターや新しい住宅地は後背湿地に立地している。このような本校の立地から地域調査の視点を、①県都岐阜市との近さ、②ベッドタウンとして開発が進む柳津町、③氾濫原の集落の立地、において実施したい。

## 3 本校の現状と地域調査の実施の手法

本校は羽島郡内の進学校として昭和50年代に創立した比較的新しい学校である。前述の通り、岐阜市に隣接し立地していることから、通学者は羽島郡内と並んで岐阜市からも多い。柳津町からの進学者は町域が狭いことと町外の学校への進学も容易なことから必ずしも多くなく、地域の学校という認識は比較的薄い。平坦地に位置する学校であることから、ほとんどの生徒が自転車で通学している。

本校は、2・3年理系のクラスで地理Bを4単位で実施している。センター試験受験科目として履修させているが、地理を受験しない生徒も半数近くおり、最小限の単位数での受験対応のための進捗確保と、受験のためだけでない興味・関心の維持の両面を配慮した授業展開を考えなければならない。

このような現状をふまえあえて巡検実施のデメリットを考えると、①準備と実際の巡検およびそのまとめで多くの授業時間を取られる、②巡検の引率および準備で多くの教員の協力が必要であるが、実際に協力を頼むことは困難である、③綿密な準備をして実施することになるが、結果として巡検経路に限定された計画者の教師からの理解の押しつけになりうる、等があげられる。

それでも地域理解のための巡検は極めて有効性である。そこで本校の現状をふまえて、一斉の巡検を実施するのではなく、”生徒個々が自分の時間にあわせておこなう”という手法を考えた。具体的には、本校のほとんどの生徒が自転車通学で、その通学路は多岐にわたることを利用し、各生徒が通学時に通学路を調べながら登校(下校)し、調べた結果を学校(授業)に持ち寄り、地形図上に書き入れていくことにより、その結果を共有し考察し地域理解につなげる。この方法ならば、授業での巡検の時間の確保が必要ないこと、教員および生徒の負担も小さくて済むこと、巡検で回った場所だけでなく面的な認識が可能であることなど、メリットも大きいと考えられる。

#### 4 学習計画

前述の現状をふまえて、今後実施するという前提で学習計画を立てた。調査の時間を生徒の都合にある程度まかせること、調査結果を集積するのに時間がかかり一連の内容を集中して数時間の授業に収めることはできない。よって、平行して他の内容を授業でおこないつつ実施する手法で計画した。

(1) 柳津町を中心とした地形図作業および調査方法の説明…… 1 時間 (本時)

(2) 生徒による通学路調査……登校時他

通学路付近で地形図の表記と異なる施設をチェック、道路が坂道となっている箇所を確認

(3) 拡大した地形図上に生徒が調べた内容を記入…… 2～3 時間(各時間の一部)

通学路付近で地形図の表記と異なる施設を記入、通学路で坂道の箇所を記入

(4) 調査内容が記入された地形図を元にして柳津町の地域理解のまとめを実施…… 1 時間

自然地形の氾濫原の理解および集落の立地、発展する柳津町の考察

- 5 一連の授業の目標
- (1) 身近な地域の自然環境、発展の状況を認識し、地域への興味・関心を高め、地域に対する近親間を培う。
- (2) 作業・調査活動・考察を通じて、地理的な見方・考え方に対する応用力を身につけさせる。

#### 6 学習指導案

(未実施であり、日時・指導クラスは未定。調査の事前の準備作業を想定した授業概案である)

|       |   |       |   |
|-------|---|-------|---|
| 本時の活動 | 学校周辺を地形図からさぐる   | 使用地形図 | 岐阜、岐阜西部 25000 分の 1 地形図<br>(B 4 サイズ 1 枚に編集・印刷したものを配布・使用) |
| 本時の目標 | ①地形図上の作業を通じて地理的技能を身につける (関心・意欲・態度) (資料活用の技能・表現) (思考・判断)<br>②地形図上の作業を通じて、地域を概観する (知識・理解)<br>③地域調査の方法について理解する (思考・判断) (知識・理解)   |       |   |
| 生徒の活動 | ・羽島北高校の敷地を青の実線で囲む > 通学路の終点である学校の位置、立地の認識<br>・カラフルタウン、柳津町役場など主要施設の位置を確認し緑の実線で囲む<br>> 通学路の目印となる主要施設の位置の確認<br>・柳津町と周辺市町の境界線を赤の実線でなぞる<br>> 調査の中心となる柳津町の範囲の確定、学校が岐阜市に隣接することを確認<br>・通学路を茶の実線でなぞる > 各自の調査経路を確認、確定<br>(この場でわからない生徒は調査しながら通学路を地形図上になぞってくる)   |       |   |
| 調査の説明 | (調査項目および調査結果を記入する用紙を配布)<br>①記入した通学路に誤りがないか確認し、誤りがある場合は訂正する > 作業の誤りを確認<br>②通学路周辺の土地利用や施設が地形図と異なる地点を地形図および用紙にチェックする<br>> 地域の発展の方向性、発展の早さを認識する<br>③通学路で坂道となっている場所を地形図に記入する > 地形図上で見えない微地形を確認<br>> データを集積させ自然堤防を割り出し、集落の立地との関係を理解する<br>④柳津町域外から通学する生徒については境界線地点の様子を観察する<br>> どのような地点に境界線があるか確認、一部が川など自然の障壁であることを理解<br>⑤その他、気付いた点を用紙に記入する > 新しい発見をさせ、興味・意欲・態度を評価 |       |   |

(>の後の記述は生徒による活動や調査のねらいを示す)

#### 7 まとめ

本小論はあくまでもおおまかな授業の想定であり、今後、教師側の事前の調査・準備、生徒の実態をふまえた具体的な実施案を考え、実践したいと考えている。